

第38回 市民まちづくり連続講座 in 明石

城下町明石と中崎緑地 400年の歴史を振り返る

市民まちづくり連続講座の再開2回目(通算38回)は、5年前に築城400年を経た「城下町明石」を振り返ります。中心市街地に隣接して2つの隅櫓と壮大な石垣を擁した城跡は、県立明石公園として誰もが知る陸の「ランドマーク」です。しかし、残念ながら「城下町明石」は城跡だけが目につくだけで、明石川以東に展開されていた「明石城下町」の姿を彷彿させる町の姿や“城下町遺構”は姿を消しています。城下町の「町割り」すら明石駅前広場や錦江橋など限られたところに古地図の銘板らしきものがあるだけで、城下町の資料館も存在しません。

こうした中でいま、消防分署の建て替え予定地になっている市役所前の「中崎緑地」に脚光が当てられています。中崎緑地は400年前の築城時代に明石港築港に併せて掘り込んだ土砂を中崎海岸沿いにあった砂州に積み上げて土塁を造り防波堤にした地形が、今に伝わっている城下町遺構です。明治以降は戦後まもなくまで「中崎遊園地」「明石遊園」として明石中心部の賑わいの拠点になってきました。

講座では、元県立図書館職員で今春まで明石市の市史編さんを担当した宮本博さん(神戸史学会会員)を招き、城下町明石の実情や特色、今も残る数少ない城下町遺構などについてお話いただきます。

第38回市民まちづくり連続講座 in 明石

日時 2023年10月29日(日) 午後1時30分～4時30分

会場 ウィズあかし 市民活動支援センター・フリースペース(明石駅前アスパシア明石8階)

テーマ 城下町明石と中崎緑地 400年の歴史を振り返る

講師 宮本博さん(神戸史学会会員、元・県立図書館職員、明石市史編さん担当)

※資料代300円 ※事前申し込み不要。どなたでも参加できます。会場に直接お越しください。

城下町明石は二代将軍徳川秀忠から明石城の築城を命じられた小笠原忠政(忠真)が1618年(元和4年)築城を開始した。現在の国道2号辺りから桜町、本松寺にかけて外堀があったが今では跡形もなく、明石公園の外周になっている堀は内堀だった。外堀と内堀の間は武家屋敷で外堀から海辺までに町屋が広がっていたが、町名も新住居表示で大半が消えて面影は少ない。

(右図は城下町の町割りの一部)

「魚の棚」自体は東魚町、西魚町と呼ばれた町割りの一部を伝えているが、戦災や駅前大火を経て城下町のたたずまいは消え失せている。その中で、明石港の本港や中崎緑地は海岸埋め立て前の町割りの遺構を伝える貴重な存在でもある。

「城下町明石」と言いながら、城下町を大事に伝えることをしてこなかった歴史も振り返り、あらためて「まちのアイデンティティ」を後世に伝える課題を考えたい。



